

Kyot.Prot.N.45/2017

洛東ブロック担当司祭団

河原町教会 小教区評議会 御中

2017年5月8日

パウロ大塚喜直

京都教区司教座聖堂献堂記念日の変更の趣意書

今年2017年、聖フランシスコ・ザビエル司教座聖堂献堂50年目を迎え、6月18日（日）キリストの聖体の祭日のミサで献堂記念感謝の祈りをささげます。この節目の年に、わたしは、京都教区司教座聖堂の献堂記念日を、現行の11月23日から、12月3日に変更したいと思います。

【聖堂の献堂記念】

聖堂とは、目に見える建物ですが、キリストがこの地上に建てられた教会の特に優れた「しるし」であり、天にある教会の「かたどり」でもあります。キリストは、ご自分の死と復活を通して、新しい契約の真の完全な神殿となられました。教会は、父と子と聖霊によって、一つの聖なる民となった神の神殿です。キリスト信者は洗礼の秘跡を通して、一人一人も聖霊の神殿となりました。

聖堂は、神の民が集い、聖なる務めを果たすことを唯一の目的とする建物です。その献堂を記念することは、神の民の聖なる務めを思い起こし、その務めをふさわしく果たしているかを確認する大切な機会です。

【聖堂献堂の経緯】

現聖堂は、1890年（明治23年）に献堂された旧聖堂を財団法人『明治村』（愛知県犬山市）に寄贈移築するにあたり、1967年に建立されました。『河原町教会宣教百年の歩み』によると、同年1967年6月17日に「旧聖堂とお別れ」、18日に「新聖堂へ移る」とあります。

新聖堂の建築計画にあったステンドグラスは、翌1968年11月24日に除幕式があり、パイプオルガンはさらに4年後の1972年3月に設置されました。そして、ロイヤルホテルが1972年10月に完成したので、同年11月23日ようやく新聖堂祝聖式が行われました。以来、この11月23日が京都教区の司教座聖堂献堂記念日となっています。

【聖堂名の聖フランシスコ・ザビエルの祝日の祝い方】

現聖堂は、旧聖堂と同じく、聖フランシスコ・ザビエルの名で献堂されています。教会堂の名称である聖人の記念日は、河原町教会だけでなく、司教座聖堂として京都教区にとっても大切な日です。しかし、残念ながら、聖フランシスコ・ザビエルの祝日12月3日が待降節中にあることもあって、特別な形でミサをささげていません。

しかし聖フランシスコ・ザビエルは日本のカトリック教会にとっては重要な聖人であり、日本司教団は2016年から、12月3日の祝日名称の「聖フランシスコ・ザビエル司祭」に、「日本宣教の保護者」を冠する祝日名にしました。

【司教座聖堂の献堂記念日】

典礼規則では、地方教会、すなわち司教区の重要性と品位を明らかにするため、司教座聖堂の献堂記念日を、司教座聖堂においては「祭日」として、教区内の他の教会堂や聖堂においては「祝日」として祝うように定められています。しかし、その献堂当日に祝うことが困難である場合には、最も近い日を献堂記念日として指定することができます。献堂記念日に司教は司教座聖堂において、できる限り多くの信者の参加を得て、感謝の祭儀を共同司式することが望まれています（カトリック儀式書 献堂式 諸言26）。

以上のような経緯と理由で、わたしは京都司教として、京都教区司教座聖堂の献堂記念が聖フランシスコ・ザビエルの祝日に祝われるように、「12月3日」に変更したいと思います。そして、原則、司教がこの記念日のミサを司式したいと思います。

なお、この変更は2018年の暦から正式に記載されるように、今年度中に変更を申請したいと思っております。以上、ご理解をよろしく申し上げます。

以上